

## シカゴ日本人学校中学部におけるアメリカの特色を生かしたキャリア教育の実践

前シカゴ双葉会日本語学校全日校（シカゴ日本人学校） 教諭  
北海道北見市立光西中学校 教諭 和 田 裕 之

キーワード キャリア教育、探究学習、現地理解教育、国際理解教育、教育課程

赴任校の概要（2025年3月31日現在）  
シカゴ双葉会日本語学校全日校（シカゴ日本人学校）  
<https://chicagojs-next.edumap.jp/>  
児童生徒数：幼稚部27人 小学部63人 中学部26人

### 1 はじめに

私は、教員20年目という節目の年に、在外教育施設で勤務する機会をいただいた。中学校の保健体育や技術科などの教科指導はもちろんのこと、アメリカの特色を生かした教育活動を通して、3年間の派遣生活で学んだことを紹介したい。

### 2 シカゴ日本人学校の特色ある教育活動

アメリカはアラスカ州、ハワイ州を含め、50の州から成り立っている国である。シカゴは中西部のイリノイ州にある中西部最大の都市であり、街の東側にはアメリカ五大湖の1つであるミシガン湖が広がる。緯度は、日本の函館とほぼ同じであるため、冬季はかなり気温が下がる。シカゴは摩天楼発祥の地として知られる他、Windy City（風の街）とも言われるよう、北海道出身の私でも冷たいと感じる風が吹くことでも知られている。また、イリノイ州はThe Prairie State、大平原の州という別名がある。シカゴから1時間も車を走らせると、平坦な土地が続き、トウモロコシ、大豆などの大穀倉地帯が広がる。州都はSpringfieldで、第16代大統領エイブラハム・リンカーンが人生の大半を過ごした町として知られている。

シカゴ日本人学校は、シカゴから北西30mile (48km) の街アーリントンハイツに校舎を構える。1つの校舎に幼稚部から小学部、中学部と幅広い年齢の子ども達が学ぶ様子が見られる。また土曜日に校舎を訪れる、平日はアメリカの現地校に通う補習校の児童生徒に出会うことができる。

職員は日本、アメリカ、メキシコ、ペルトリコにルーツを持つなど多様性に溢れている。

### 3 シカゴ日本人学校の特色ある教育活動

#### （1）シカゴ日本人学校の教育課程とAG+事業との関わり

シカゴ日本人学校は幼稚園から中学部までアメリカならではの教育活動が展開されている。日本人学校として日本と同等以上の教育内容を保証しながらもアメリカでしか味わえない活動ができるよう教育過程が工夫されている。

シカゴ日本人学校の年間の総授業時数は日本国内の学校と比べて非常に多い。全児童生徒の下校がスケ

ルバスであることから、小中学生の下校時間を揃えなくてはならないため、小学校1年生から中学校3年生までが同じ授業時数で活動している。

ゆとりある年間の総授業時数を生かして、様々な教育活動に取り組んでいる。私が所属した中学部での活動は、運動会や学校祭（学習発表会）、シカゴダウンタウンへの校外学習（1・2年）、ボストンへの修学旅行（3年）、職場訪問学習、上級学校訪問学習、ゲストティーチャー授業、アメリカ現地校との交流学習、1泊2日のスキー宿泊学習、現地インストラクターに指導を受けるスケート学習など多岐に渡る。

また、2024年からAG+研究指定校となった。AG+事業は、海外子女教育振興財団が文部科学省より受託した「在外教育施設重点支援プラン」であり、特色ある研究開発による教育の高度化を図り、児童生徒の学びを保証する教育の質の向上や、多様性・特色化の推進を図るための優れた教育プログラムの開発支援を実施するものである。

これによりシカゴ日本人学校では探究学習の取り組みが始まり、既存の教育活動が効果的に密接にリンクさせるよう意識した学習活動が展開されることとなった。

## （2）シカゴ日本人学校の教育活動の実際

### ①中1・中2シカゴダウンタウン校外学習と中3ボストン修学旅行

中学部では、1・2年生がシカゴダウンタウンへの校外学習、3年生が2泊3日のボストン修学旅行を行っている。特に2024度からは、シカゴ型探究学習の一環として位置づけ、探究学習の大テーマである「アメリカを通して日本を見る」視点を身につけるための導入となるよう事前事後学習を計画した。

シカゴダウンタウン校外学習ではシカゴの施設見学や調べ学習を通して「日本はどうなっているのか？」という学びの種を見つけることができ、探究学習の導入としては成功だった。

3年生になると修学旅行を通じて、アメリカの歴史、成り立ちについて理解を深めた。アメリカの建国の歴史に対する理解を深めることで、国家や民族のルーツについても考える機会となった。アメリカは比較的新しい国であることを知り「では日本はどれだけの歴史があるのか」と日本の歴史にも興味を抱いた生徒も多い。行程でハーバード大学やマサチューセッツ工科大学という世界でもトップの大学を訪問し、中学3年生が自分の進路目標実現に向け、意欲を高めることができた。

### ②職場訪問学習、上級学校訪問学習、シカゴ夢教室（ゲストティーチャー訪問学習）

私が所属した3年間で以下の訪問学習や講師を招いての学習を行なった。

	職場訪問学習	上級学校訪問	ゲストティーチャー学習（シカゴ夢教室）
2022年度	建築事務所 法律事務所 OMRON工場	エルクグローブ高校	—
2023年度	シカゴ総領事館	ノースウェスタン大学 エルクグローブ高校	バイオリニスト 太鼓奏者、JAL ANA
2024年度	連邦裁判所	デュポール大学 エルクグローブ高校	MLBプレーヤー 柔道家 大学医師 Youtuber

職場訪問学習では、なかなか日本では訪問することのできない職種について学び、将来日本を離れて働くグローバルな視点を育む良い活動であった。上級学校訪問では、日本語を学ぶ大学生と交流し、お互いに意見交換をしたり、自分の研究課題についてインタビューしたり、貴重な調査活動、英語学習の場となった。

外部講師を招致しての学習は、現役のメジャーリーガーや大学病院医師の話は生徒達に強烈なメッセー

ジを残していた。

### ③アメリカ現地校交流学習

シカゴ日本人学校中学部は、小学部と同様、「異文化理解」、「国際理解」の柱となる学習として、現地校との交流学習を行っている。私の3年の派遣期間では、ちょうどコロナが収束を迎えたこともあり、多くの学校と交流を経験することができた。“Go（現地校訪問）”、“Come（全日校に招致）”からなる授業から多様な学びを得ることができる。

シカゴ日本人学校中学部の交流校（2024年度）

Adams middle School (Go, Come)、Thomas middle School (Go)、Erk Glove High School (Go)

“Go” “Come” それぞれの交流では、文化交流やレク交流を行った。特に2023年度からは、中学部の探究学習と絡めて、学習活動を設計し、生徒が自分の探究テーマについて、調べた内容をレポートにまとめプレゼンし、現地アメリカ人から、意見や感想をもらうインタビュー活動を通じて、調査活動のスキルを高めることができた。生徒達にとって、現地校との交流は、日頃学習している英会話の実践の場であり、自分の調べた内容をどう伝えるか苦心しながらも楽しく授業に臨んでいた。

Goにおいては、シャドーイングという一日中現地校の生徒とともに授業を受ける。現地のカリキュラムを体験し、生徒達は日本との違いを感じ、その両方の良さに気づいていた生徒もいた。

### ④その他の現地理解教育（スキー合宿、スケート学習）

シカゴ日本人学校では、現地理解教育として位置づけ、スキーとスケート学習を行っている。中学部ではスキーにおいて、宿泊学習として行うことで、集団でのマナーやルールなどを学ぶ。イリノイ州は、山が無く平地であるため、北のウィスコンシン州の山（丘？）まで出かける。そんなに大きなスキー場ではないが、人工降雪機を備えており、周囲に全く雪が無い状態でもスキー場を安定的にオープンさせることができ、雪不足のためクローズになることはない。

またスケートについては、アメリカでは人気の冬季のアクティビティであり、冬になると多くの街中でアイススケートリンクを見かける。テキサス州のヒューストンという南部の都市のモールでも冬季はアイススケートを楽しむ光景が見られる。特にアイスホッケーは4大スポーツの1つであり、シカゴにはNHLブラックホークスがある。習い事でアイスホッケーに親しむ子ども達も見られる。

スキー学習、スケート学習には、現地インストラクターから学ぶことができるというメリットもあり、アメリカのインストラクターから英語で指導を受け、アメリカ流の指導法を経験できる。

日本のインストラクターは、段階を踏んで教える場合が多いが、アメリカは「習うより慣れろ」、とにかく理屈は後回しで滑走量・滑走時間を重視した指導であると感じた。これは現地校の体育の授業を参観した時にも同じ感想を持った。

スキー学習もスケート学習も生徒達は楽しんで取り組んでいる。日本人学校の生徒は雪国出身であることは稀であり、ウインターリースポーツを新鮮に感じている様子であった。生徒達は何事にも意欲的に取り組むため、スケート、スキーともに2日間の活動の中で、とても上達する。スキー学習費用は\$500を超え非常に高いが、価値ある活動である。

## 4 終わりに

シカゴ日本人学校の生徒達の境遇は様々である。両親の仕事の都合で、日本を離れることとなり、アメリカでの生活に不安や不満を抱いている生徒も少なくない。そんな生徒達に「アメリカに来てよかったです」「日本人学校に入ってよかったです」と思って貰えるような選ばれる魅力ある学校づくりが、特に北米の派遣教員の責務であると私は考えていた。

日本人学校では、海外に住みながら、日本人としてのアイデンティティを形成し、自身の強みに気づき、個性を伸ばそうとする生徒を様々な活動を通して育成することができる。生徒達と交流していると、将来の活躍の場に海外を選択肢に入れていることも少なくないことがわかる。世界を知っているということが、すでにグローバル人材の卵としての資質として備えられている。この世界に一步踏みだす勇気を授けることは、地方ではなかなか難しいため、グローバル人材を育成するための在外教育施設の役割は大きいと実感した。